

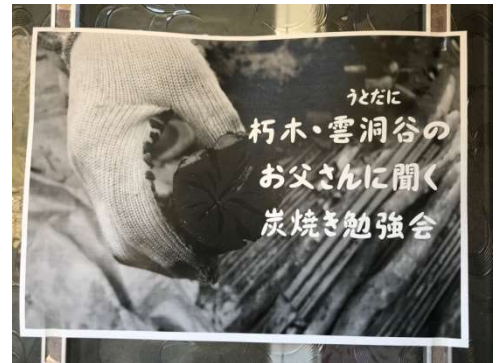
高島市朽木地区には、かつて、どのくらいの炭焼き窯が存在していたのだろうか？という興味は、朽木の谷に入り、窯跡を目にするたび大きく膨らみ、すべての窯跡を記録したいと思うほどである。

雲洞谷集落を流れる北川の支流、大谷川。その支流には、多くのトチやカツラをはじめとする巨木が残っており、保全活動のために入山すること10年。ここでもまた、たくさんの窯跡を確認してきたのである。その窯跡を目にするにつけ、先人の知恵と工夫に驚かされる。窯跡は、谷の底部から一段上がった場所に作られており、洪水にも破壊されることなく長い年月を経てもなお美しい石積みの姿形が残っている。

そんな折、「朽木・雲洞谷のお父さんに聞く炭焼き勉強会」が、たかしまの森へ行こう！プロジェクトの取り組みで開催されると聞き参加した。

生活様式の変化に伴って、炭の需要は減少の一途をたどり、その技術も薄れようとしていると聞く。そんな中で、炭焼き技術を継承し、地域活動や学びの場に活用していこうという動きに共感した。

雲洞谷は、びわ湖水源の森であり、人がこの森に入ることにより山も森も川も健全に維持され、生物多様性など意識せずとも自然に生物多様性が存在し、人もまた、森に生かされてきたのである。



さて、集合、挨拶、自己紹介が終わると、雲洞谷で炭焼きに取り組まれる「まるくもくらぶ」より、いよいよ炭焼きのお話が始まる。

昨年、雪が消えた4月、幅約2.5m、奥行き約2mの窯新設に着手。地盤固め、煙道口づくり、そして4月21日には石積みが完成。5月18日にはトタン張りの屋根完成と、代表の井上岩夫さんの説明が続く。参加者の皆さんは熱心に耳を傾け、スライドを食い入るように見ている。質問タイムでも質問が矢継ぎ早に飛び交い、午前の部が時間いっぱいとなる。昼食は、郷土のお惣菜で作ってくださったお弁当に舌鼓。一人1個あての「つきたてとち餅」に、皆さんのもう一つたべたいなあ。そんな表情が！とち餅ファンとしては、嬉しいことこの上なしである。

さてさて、食後は、待望の炭焼き窯見学である。炭焼き窯は、食事をした雲洞谷集会所から北へ、大谷林道の出合を過ぎて、道が右岸から左岸に渡る橋の手前の農道を少し入ったところにある。聞いたばかりの炭焼きの話を通るように、それぞれが興味深い様子で窯の中を見せていただく。

ここで焼かれた炭が「朽木市場日曜朝市」に並ぶ日も近い。満開の梅が地元の活動を励ますかのように日の光に輝いていた。

